

奈良山通信

今回は、奈良山等妙寺のご住職をご紹介します。

奈良山等妙寺は、

一三二〇年に、理玉和尚（静義上人ともいう）によって、開創された律寺（律宗寺院）で、宗派は天台宗です。それから、約六九〇年前より脈々と時代の流れを紡ぎながら現在に至っています。



第四十二代 大僧正 関 覚圓師は、物静かで温厚な方で、天台宗の四国教区宗務所長として二期八年、宗門の隆盛に寄与されました。
昨年七月に遷化されました。

ご子息の少僧都 関 秀圓師は、平成十二年より等妙寺副住職を務めておりましたが、平成二十五年二月、第四十三代等妙寺住職に就任されました。ご住職は、現在三十八歳で、中学生のご子息がおり、前住職同様温厚で子

煩悩なご住職でいらっしゃいます。

幼少時代は地元鬼北町で育ち、愛媛県立北宇和高等学校、学校法人延暦寺学園 叡山学院

佛教大学文学部仏教学科

へ進まれ勉学に励まれました。

その後、天台宗の本山 比叡山で修行をされました。現在でも、本山へ度々修行に行かれています。

穏やかな雰囲気をもつご住職も、学生時代は、サッカー選手として活躍され、現在でも趣味でスポーツ観戦を楽しまれているそうです。



霊苑をご利用頂いている皆様とご先祖様の幸せの為、心を込めてご供養致します。

◆除夜の鐘は等妙寺で◆

大晦日には、等妙寺で除夜の鐘をすることが出来ます。午後十一時半から整理券が配られますので、是非、皆さんでご参拝下さい。お蕎麦等の御接待もあるそうです。



奈良山等妙寺の歴史等については、別紙『奈良山等妙寺のお話』を連載していく予定です。

鬼北町在住のH氏に、お話を伺いましたので、是非ご拝読下さい。

オススメ品！

年末・年始を迎えるにあたって、仏具等を新調しませんか？左記商品以外にも、その他各種取り扱っております。

ご来店お待ちしております。



御霊供膳
¥2,835～



経机
¥19,000～



念珠
¥1,800～

私のおすすめ！



墓石専用洗剤
¥1,260～

花筒（1個）
ステンレス ¥2,100～
プラスチック ¥525～



石香炉
¥7,200～



ご利用者様へ

平成25年度年間管理料を10月末にお引き落しさせて頂きました。また、お支払い手続きのご相談がございましたら、管理事務所までご連絡下さい。

今年も、奈良山通信をお読み頂き誠にありがとうございました。冬場につき霊苑内の水道が凍結している場合には、ご遠慮なくお声掛け下さい。尚、お手洗い等、お気軽にお立ち寄り下さいませ。

12月28日（土）
1月5日（日）



両日につきましては、社内行事の為、午後1時に閉店させて頂きます事をお知らせ致します。

◆年末年始の営業◆

12月31日（火）まで 通常営業
1月1日（水）～3日（金）休業
1月4日（土）から 通常営業



年の瀬もいよいよ押し詰まりお忙しい毎日をお送りの事と存じます。師走の寒さもひとしおですが、お風邪など召しませぬようくれぐれもご自愛下さいませ。来年もご愛顧の程、宜しくお願い申し上げます。

発行元：奈良山霊苑管理事務所
〒798-1351
愛媛県北宇和郡鬼北町奈良4230-1
電話番号 0895-45-0164
<http://narayama-reien.jp>
営業時間 9：00～17：00

奈良山等妙寺のお話

[第1回]

みなさんは、奈良山等妙寺についてどの程度ご存知でしょうか？

「昔の等妙寺は、格式が高くて、すごいお寺だったんだよ」、「後醍醐天皇の勅願寺だった」、あるいは「理玉和尚」というお名前を伺ったことがあるかもしれないね。もっといろいろ聞いて知っているとこの方もおられるでしょう。昔から言い伝えとして語り継がれてきた伝説。一度は耳にしたことがあるという方は多いと思います。

では、それが書かれている文献「等妙寺縁起」の事を知っていますか？そこにどんな事が書かれているかをご存知の方は、恐らく少ないのではないのでしょうか。

そこで、この「等妙寺縁起」について、内容や研究の現状も含めて、数回にわたって紹介したいと思います。

「等妙寺縁起」とは？

「縁起」というのは、社寺の由来や霊験などの伝説、それらを記したもののことを言います。

かつては等妙寺にもその由来を記した「等妙寺縁起」が伝わっていました。今は、お寺にはありませんが、東京大学史料編纂所に文化二年（一八〇四）の書写本と昭和三年（一九二八）の謄写本の二本があります。また、江戸時代の初め頃に書かれたとされる『宇和旧記』にも等妙寺縁起の記事が見られますので、少なくともその頃までには成立していたものといえます。これが等妙寺縁起を紹介した文献で一番古いものです。

現代に活字化されたものは昭和四〇年（一九六五）愛媛国語国文学会が発刊した「愛媛の文学史料叢書Ⅰ」「南予文学 古代中世編」に所収され



ています。この他にもいくつかあります。

「縁起」とは、いわば伝説です。したがって、それが本当の事かどうかというところ、そこに書いてある事だけを鵜呑みにはできません。ですが、全くのでたらめとも言えません。そこに書かれている事が本当か、史実かどうか、等妙寺研究が始まるきっかけ、その原点が、まさにこの「等妙寺縁起」なのです。

「等妙寺縁起」に書かれていること

では、その中にはどのような事が書かれているのでしょうか。はじめは等妙寺を建立するまでの逸話が記されています。今回は、その冒頭を紹介しましょう。

―元応二年（一二二〇）等妙寺を開いた理玉和尚は、伊予国内に寺を建てようと遍歴していたが、良い場所が見つからない。あるとき、宇和荘の奈良山に入ってみると、山は高くそびえ、南は土佐の山に続き、西は海に区切られ、北と東は人里から遠く離れている。古杉が森々として数十万本、枝葉が繁茂して雨露があたらぬ。理玉和尚は、ここを勝地と定め、三七日間こもって諸天善神に祈りを捧げた。

行法を全て終え、里に降りようと谷を下ると、黒毛の馬を洗う二人の男に遭った。夕暮れ時で、理玉は「一宿を借りたい」とお願いした。二人は快く承諾し、居宅に案内した。石扉を開けると、屋内は荘厳華麗で、種々の肴膳でもてなされた。「御僧は、どうしてあのような所にいたのか」という二人の問いに、「幼少から京都で修業し、顕密戒の三学を学んだ。その中で円頓戒という特別な戒法を伝える一流がある。それを広めるために寺を建てる場所を探し求めていた」と経緯を伝えると、「我らは曾我十郎祐成と五郎時宗。この世の業がいまだに拭えず、修羅の戦いの中にある。

戦いは昼夜各一度で、今がその時刻だ。どんな怪異があっても驚かず見てほしい・・・」すると突然に、どこからともなく大勢の敵が鯨波となつて押し寄せ攻めてきた。兄弟も甲冑に身を包み、馬に乗って攻め戦うが、終に首を討たれてしまう。

それを見た理玉は悲歎し、彼らを苦しみから救おうと秘文を唱え、繰り返し祈りを捧げた。しばらくすると、容貌美麗な女性が、水を入れた瑠璃の鉢を持ってきて、二人に注ぐと夢が覚めるように蘇生した。

「なんと悲しいことだ。成仏できないのは戒を破つてきたために、このような重苦を受けるのだ。この罪業を滅するため、戒を授けましょう。成仏する日が来るまで戒を守り続けなさい」

兄弟は、理玉の教えに従い、すぐに戒を受けた。「あなたの教えでようやく成仏できる。そのことは疑われないが、いまだ全く迷域を脱しない。我らの仏果菩提（冥福）、あなたの志願成就のために早く寺を創ってください。我らの秘蔵する仏舍利を本尊としなさい」

理玉は、このために広く壇信を集め、奈良山に寺を建立した。これが等妙寺である――

曾我兄弟は、鎌倉時代初期の武士、河津祐泰の子で、幼少の頃、父が工藤祐経に殺されたので、富士の裾野の狩場でその仇討を果たします。

しかし、兄弟ともに捕えられ殺される―「曾我物語」として、古くから歌舞伎や能楽の好題材とされてきました。

なぜ、等妙寺の創建に曾我兄弟の亡霊が登場するのか、多くの謎を秘めた「曾我兄弟の伝説」。次回も引き続き、「等妙寺縁起」を読んでいききたいと思います。